



北海道有林野 整備管理計画（後志管理区）の概要



管理区の概要

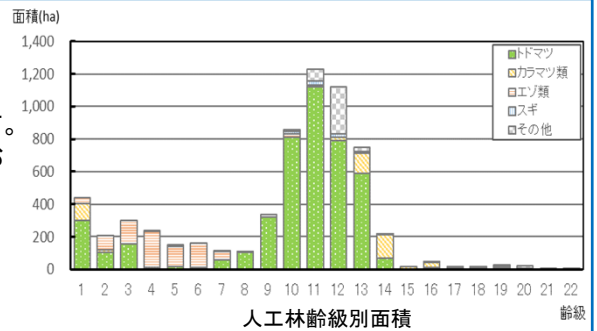
- ・当管理区は、北海道の中央西部に位置し、後志・胆振・渡島の3総合振興局、10町村にまたがり所在しています。
- ・管理区内を横断する尻別川、東側には、羊蹄山（支笏洞爺国立公園）、北側にはニセコ連峰（ニセコ積丹小樽海岸国立公園）があり、また太平洋（内浦湾沿い）の海岸縁はすぐれた自然地域である静狩礼文華道自然環境保全地域に指定されています。
- ・森林の特色として、ブナの北限保護林、アカエゾマツ西限保護林等の特異性を有する森林があります。
- ・森林面積は約4万3千ha、その大部分がミズナラ、ハルニシ、カンバ類などの天然林となっています。人工林面積は約6千4百ha、うち約7割がトドマツとなっています。



市町村	面積 (ha)
長万部町	1,802
寿都町	2,804
黒松内町	7,272
蘭越町	14,649
ニセコ町	6,010
真狩村	1,681
喜茂別町	336
京極町	920
倶知安町	2,414
豊浦町	4,787
管理区計	42,675

多様で先導的な森林づくりに係る取組

- ・人工林で現在単層林となっている林分のうち47%が11 齢級以上で主伐期を迎えているため、今後人工林の高齢化による立木の腐朽及び枯損の発生による森林荒廃等を考慮し、現地諸条件に配慮した単層林施業及び複層林施業に区分したうえで、積極的な主伐及び更新を図ります。
- ・天然林については、立木本数が少ない疎開した林分が大半を占めており、時間をかけて森林資源の回復を図る必要があるため、当面の間、伐採等は行わず自然の推移に委ねることとし、徐々に公益的機能の充実を図っていくものとします。なお、過去にかき起しを行った広葉樹二次林については、幅状伐採による競合緩和及び植栽による複層林造成を進めていきます。



○目標の指標

【育成単層林・育成複層林・天然生林別面積(単位:ha)】

森林の区分に応じた適切な森林の整備や保全の実施により、多様な樹種や林齢からなる森林の育成を目指します。

区分	令和元年度	令和13年度
育成単層林	5,219	4,244
育成複層林	3,570	4,545
天然生林	33,886	33,886

○計画量

【伐採材積】 (単位:千m ³)			【更新面積】 (単位:ha)			【路網開設】 (単位:km)		
区分	前期	後期	区分	前期	後期	区分	前期	後期
主伐	124.3	110.5	人工造林	490 (676)	428 (828)	林道	0.0	0.0
間伐	51.5	41.9	天然更新	29 (86)	40 (120)	林業専用道	1.2	0.0

※括弧内の数値は区域面積

資源や技術力を活用した地域貢献に係る取組

- ・傾斜が緩やかな人工林伐採跡地においては、林業機械による地拵えを実施するなど、機械作業を前提とした人工林の造成を推進します。
- ・植栽が可能な地域において成長が早いカラマツ類の使用を推進したり、列状及び幅状間伐を推進することにより、森林施業の低コスト化・省力化を図ります。
- ・機械の導入や雇用の確保に取り組む地域の林業事業者を育成するため、安定的な事業量の確保及び計画的な発注に努めるほか、計画的な雇用の確保や設備投資を促進するため、林業事業者と連携した複数年にわたる協定を締結し、造林や保育、伐採などの森林整備に取り組みます。
- ・地域の木材需給の動向を踏まえた弾力的な木材供給に努めます。
- ・若手職員に対し森林の整備に関する知識や技術、手法等の基礎的な研修を行うとともに、最新のICT、低コスト化・軽労化施業などについて、地元林業事業者などと連携しながら新たな技術の開発に向けて検証します。
- ・木育マイスター及び企業等と連携した森林体験学習や、各種団体などによる森林ボランティア活動、小中学校の林業現場見学などについて、道有林のフィールドを積極的に提供します。
- ・羊蹄山やニセコ連峰など本道を代表する観光資源を活かして、登山やアウトドアスポーツなどの森林レクリエーションや観光等に多面的に利用され、地域の活性化につながるよう遊歩道の整備など森林の適切な整備・管理に努めます。



羊蹄山

○目標の指標

【森林づくりに伴い産出される木材の量】

道民生活に木材・木製品の利用が定着し、道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指します。

36千m³/年

(平成29～令和2年度
までの実績平均)



38千m³

(令和13年度)